

第5章

がんばる学校の紹介

趣 旨

学校が本調査を活用し、創意を生かしながら児童生徒の学力向上に取り組む様子を、積極的に紹介したいと考えております。

今年度は、10校の取組を紹介します。



草加市立新田小学校の取組

1 本校の概要

本校は草加市北部に位置し、住宅地と商業地の中に学区が広がっている。児童数 476 名、学級数 17 学級（通常学級 15 学級、特別支援学級 2 学級）の、開校 143 年目を迎えた歴史と伝統のある学校である。「信頼と伝統」をキャッチフレーズに学校教育目標「生き生き元気、伸び育つ新田っ子よく学ぶ子・思いやりのある子・たくましい子」の具現化に努めている。研究課題を「いきいき元気!自ら考え表現する児童の育成」と設定し、算数科授業研究、さらに「小中一貫教育」の研究を進めている。

われらの学校自慢

★相撲が強い

本校では、県・市内相撲大会において常に上位の成績を取っている。
また、その他のスポーツ大会にも積極的に参加し、優秀な成績を取っている。

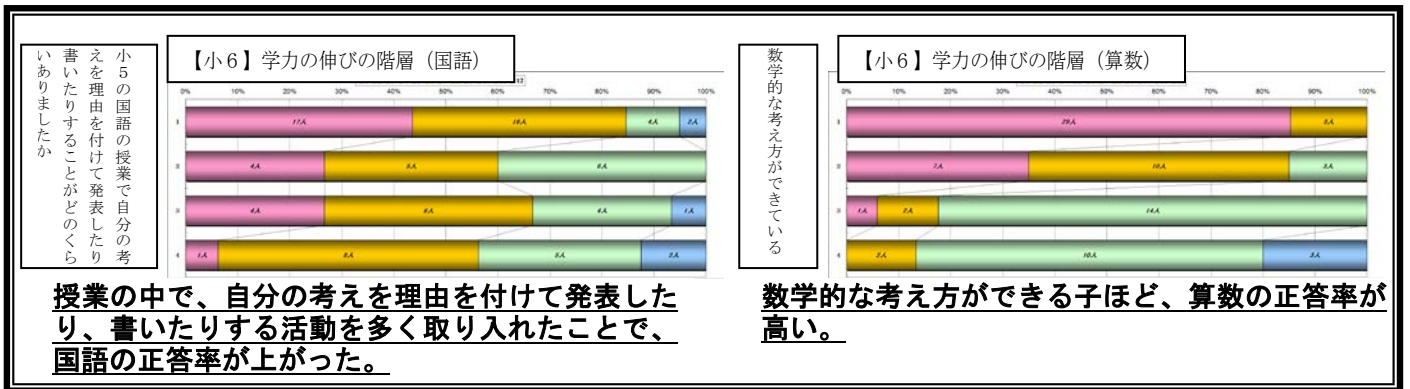


★図書ボランティアが大活躍

2つの団体による「読み聞かせ」が日常的に行われている。朝読書や業間休み、学期1回の1単位時間で行っている読み聞かせを全学級の児童が楽しみにしている。



2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



3 伸びを引き出す効果的な取組

(1) 基礎基本の確かな定着と日々の授業改善

5校時前 10分間で全校一斉に行う「基礎基本タイム」、学期初めの「漢字博士賞」、年3回本校会場による「漢字検定」を実施している。さらに教職員の専門性と学年で統一した指導を目指し、高学年において「一部教科担任制」を導入している。徹底・確実な定着・見届けを大事に指導している。

(2) 基本的な生活習慣の徹底

年度初めの懇談会において「家庭学習の手引き」を配布し、担任から保護者に直接「家庭学習の取組」について説明し協力の依頼をした。また年5回「家庭学習強化週間」を中学校の中間・期末テストに合わせ設定している。「家庭チェックシート」では学習面と共に生活面の項目を設けた。

(3) 教職員の共通理解

各種調査の分析・課題把握の場を設け、課題に視点を当てた授業改善について共通理解を図った。教職員の意識向上が図られ、指導内容が統一できたことで、教育効果を高めることができた。教職員の学校評価においても、学習面、生徒指導面共に昨年度と比較して達成率が上がった。

4 分析を踏まえた今後の取組

- 今後、中位層・下位層児童の伸びの分析・追跡をしていくと共に、学力の伸びがみられない児童にターゲットを置いた手立てや指導のあり方を見直し、改善を図っていく。
- 幅広い思考力をもった児童、応用力のある児童を育成するための手立てを講じていく。



和光市立第二中学校の取組

1 本校の概要

本校は、県南部に位置し東京と隣接している。本年度は、開校 50 周年を迎える学校である。校区に3つの大きな集合住宅グループがあり、その生徒が大部分を占める。校訓「正しく 強く 美しく」のもと全職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。

今年度からの研究主題を「生徒が主体的に活動する授業づくり ～アクティブ・ラーニングの活用を通して～」と設定し、授業研究を中心に進めている。また、ユニバーサルデザインを生かした授業づくりを充実させ、全員にわかりやすい授業も行っている。

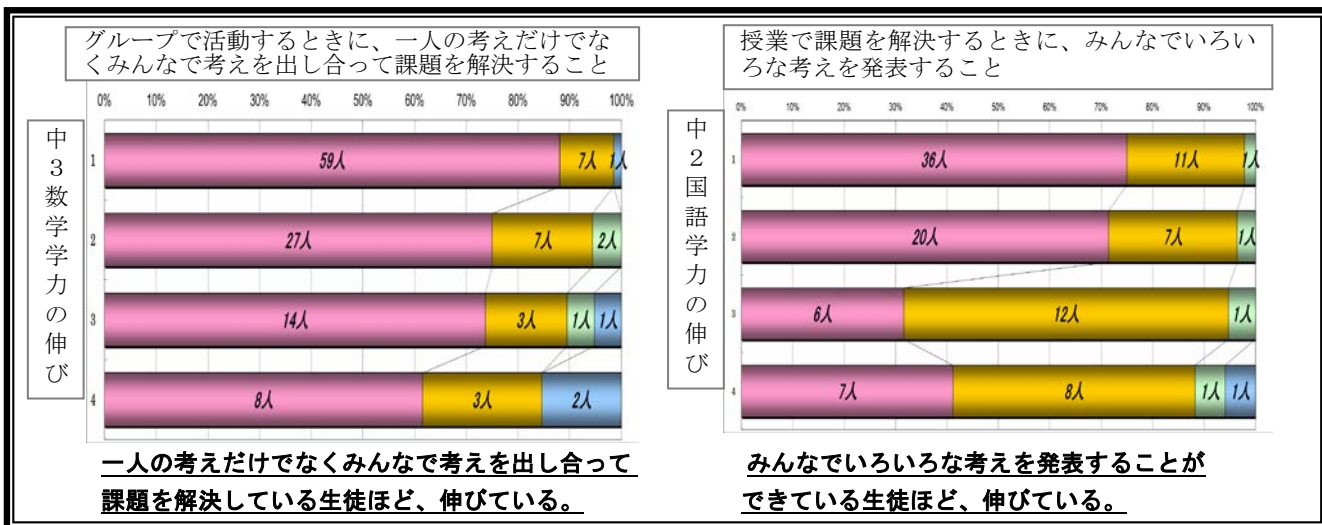
われらの学校自慢

☆ふたつのあいさつ運動

地域ぐるみで行うあいさつ運動は、毎学期の初めに5日間、市長、教育長をはじめ保護者、教員、児童・生徒が校内外で行います。生活委員会が主体になって行うあいさつ運動は、毎週水曜日の朝、生活委員会と部活動の生徒が中心になって行います。地域や保護者の方からは「気持ちよくあいさつしてくれます」と評判になっています。生徒も「あいさつができる学校」と誇れるほどになっています。



2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



3 伸びを引き出す効果的な取組

- 国語科では、4人組を基本とした小グループでの話し合い活動を授業に取り入れている。話し合い活動を充実させるために、課題を明確にすることや話し合いの手順などのルールを全体で確認するようにしている。話し合いの成果の共有化、課題に基づいた振り返りも意識して行っている。
- 数学科では、4人組を基本とした小グループで、問題の解き方を伝え合う活動を取り入れている。教師の説明の時間を最小限にし、生徒が自分の言葉で伝え合い発表し合える学びの授業を行っている。問題練習時間の確保、小テストや計算力テストの実施、自己評価表や課題の点検も行っている。
- 英語科では、コミュニケーション活動を毎時間授業に取り入れている。今まで習った文法や表現を使って1分間英語で話す活動である。セクションごとに自分の思いや考えを書く英作文、会話文の並べ替えやインフォメーションギャップ、ジグソー活動にも取り組んでいる。

4 分析を踏まえた今後の取組

- あまり学力が伸びていない生徒や中位層の生徒に対する指導は、ユニバーサルデザインを生かした授業づくりを充実させ、全員に分かりやすい授業を実践していく。
- アクティブ・ラーニングの視点を踏まえ、生徒が主体的に活動する授業へ改善を図っていく。



日高市立高萩北小学校の取組

1 本校の概要

本校は昭和53年4月1日に開校し、39年目を迎える。全校児童数807名、学級数26の大規模校である。学区は鶴ヶ島市、川越市に隣接し日光街道杉並木が中央を通る。新興住宅地と農地が混在する緑豊かな平地の中にある。

○かしこく[言葉を大切にする子]○あたたかく[笑顔あふれる子]○つよく[自分に負けない子]を学校教育目標に掲げ、学校研究を「基礎基本を身に付けさせるための学習環境づくり」と定め、ユニバーサルデザインに視点を当てた授業づくりを進めている。

われらの学校自慢

本校では、異年齢による様々な体験活動や交流活動を通して自尊感情や他者に共感する能力を高め、豊かな人間関係の礎を築く取組を推進している。特に中学校との授業交流や高校生とのあいさつ運動・体験学習、公民館活動「ふれあい音楽会」への参加、地域の方との花植え活動など、異校種間、地域の交流活動に積極的に取り組んでいる。子供たちは明るく、元気にそして素直な心で毎日の学校生活を送っている。

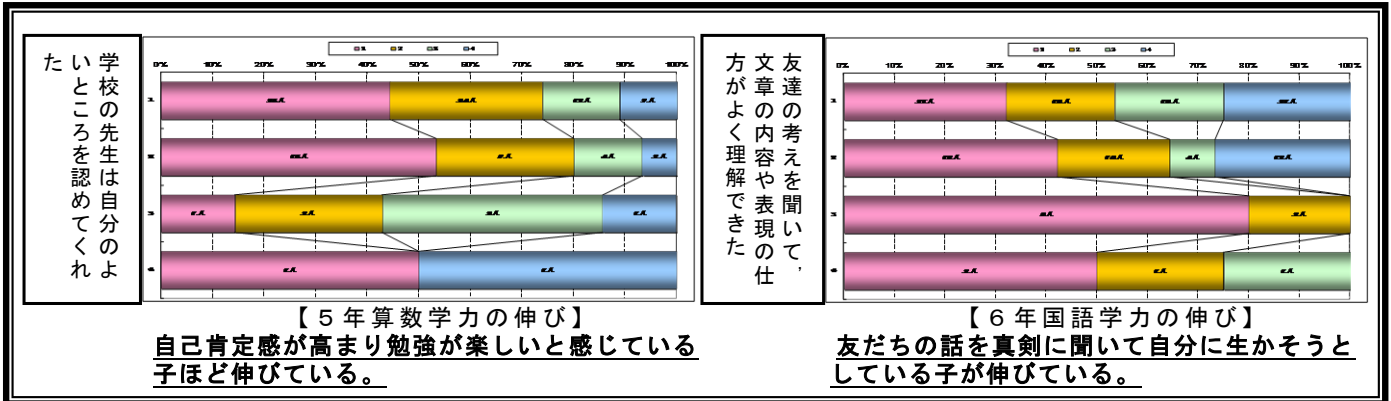
「あいさつは北小の宝」を合言葉に子供たちは自ら進んで家庭・学校・地域に挨拶の輪を広げている。



【中学生授業交流】

【地域の方と花植え】

2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



3 伸びを引き出す効果的な取組

(1) 学習規律・学習習慣の育成

・「北小みんなの学習規律」「家庭学習のすすめ」を全家庭に配布し、学校と家庭が連携して学習に集中できる環境を確保し、ルールの中で互いに認め合い、学び合うことを全学年で徹底した。

(2) 個々の課題を意識させ伸びを認める

・スキルタイムや授業において、教師が個々の児童の到達度を常に意識して対応し、伸びを認めほめる態度を示すことで安心感が培われ、児童が自ら取り組もうとする姿勢が生まれた。

(3) 1時間の流れの確立

・各授業時間で「めあて」を明確にし、学習の見通しを持たせ児童の言葉で「まとめ」をし、学びの実感を伴った授業を行った。
・授業中の児童の集中力が高まるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を推進した。

4 分析を踏まえた今後の取組

- ・家庭学習を2時間以上行う児童が増えたが、全くやらない児童も1割いる。さらに家庭学習に家庭と連携して取り組む。
- ・学習用具の忘れ物がなくなるよう、学級内での整理整頓や学習準備の習慣化を図る。
- ・日常の学校生活において、主語・述語、敬語や修飾語など、言葉のきまりを児童に常に意識させて言語環境の充実を図る。

北小みんなの学習規律

	低学年	中学年	高学年
授業前	次の授業で使うものを机の上に置いておく。		
あいさつ	いすを直してまっすぐに立ち、大声で挨拶の言葉を言う。机の上から、心算や計算問題をこなす。机の片は片にする。180°を上手に開く。180°を上手に開く。180°を上手に開く。		
聞く	話している人に目を合わせて最後まで聞く。		
話す	自分の話したいことを、相手に伝える。相手の話をよく聞く。	自分の話したいことを、相手に伝える。相手の話をよく聞く。	自分の話したいことを、相手に伝える。相手の話をよく聞く。
書く	机の上で書く。机の上で書く。机の上で書く。	机の上で書く。机の上で書く。机の上で書く。	机の上で書く。机の上で書く。机の上で書く。
あいさつ	「これで、ご機嫌いかがですか。お疲れ様です。おつかいどうございました。」		
授業後	次の授業で使うものを机の上に置いておく。		



鶴ヶ島市立南中学校の取組

1 本校の概要

本校は鶴ヶ島市の南部に位置し、昭和 61 年 4 月、鶴ヶ島市の人口急増に伴い新設された、今年度 32 年目を迎えた学校である。生徒数は 257 人、学級数は 9（特 1 含む）学級である。

目指す学校像を「生徒の笑顔が輝く学校」とし、具現化するために「『き（聴・訊）き合い』『つなぎ合い』『学び合う』教育の創造」をビジョンに「学び合い学習」に取り組み今年度で 4 年目を迎えた。

また、小・中学校間連携推進校として授業研究や教職員研修をはじめ地域住民参加の諸会議等を隣接する南小学校と合同で実施するなど 9 年間を見通した取組を数多く行っている。

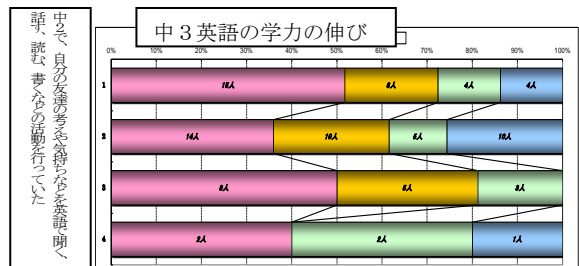
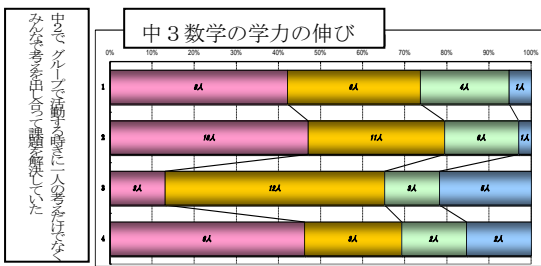
われらの学校自慢☆♪家庭・地域と連携した「体験的な学習」の取組♪☆

本校では、地域行事や防災訓練の運営ボランティア、地域住民及び地域機関の協力を得て実施する「赤ちゃんふれあい体験」、文化祭における体験講座への地域人材の活用等、地域と学校のボランティア活動の相互乗り入れが活発に行われている。特にボランティア活動参加者は、年間で延べ 180 名を超え、家族も子供を「地域行事に参画させることが当たり前」という意識が根付いている。

ボランティア活動が生徒と地域住民の絆をより一層深め、「子供は地域全体で育てる」という土壌が培われている。さらに地域行事の活性化や非行防止にも大いに貢献している。



2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



3 伸びを引き出す効果的な取組

(1) 学び合いの取り組み

鶴ヶ島市の「一人一人に目を向けたアドバンスド事業」の取組の一つである「学び合い学習」については、本校でも学校研究として取り組んでいる。全教科においてグループで取り組む課題を設ける展開を工夫している。基本は一人で取り組むが、わからないときにすぐに訊ねられる仲間がいることで、学習の行き詰まりを打開し意欲を持ち続けられる効果がある。訊かれた側はきちんと教えることにより、説明する力を伸ばし、より深い理解につながる効果がある。温かい人間関係が基盤となり、個々の学力を伸ばすことにつながっている。

(2) 数学の取り組み

現 3 年生においては、1 年時に週 4 回の T.T.授業、2 年時では少人数指導、3 年時には週 2 回の T.T.授業を実施している。また、2 年時より授業内容をプリント化し、個人の習熟度を考えた指導も行っている。授業形態の工夫と学び合いの活用により、個々の学力を伸ばすことにつながっている。

(3) 英語の取り組み

4 人グループによる、「学び合い学習」のスタイルをとっているため、苦手な生徒も授業に参加できる。音読のペアワークも取り入れている。



「学び合い学習」(4 人組)

4 分析を踏まえた今後の取組

コの字型の机配置や 4 人組の「学び合い学習」をさらに定着させ、生徒の主体的な学びを引き出す授業づくりを行っていく。

「追究がある」授業づくりを目指して、「基本課題→ジャンプ課題」の授業デザインを効果的に取り入れた授業づくりをしていく。



三芳町立三芳東中学校の取組

1 本校の概要

本校は、三芳町の東部に位置し、本年度は開校 40 周年を迎える学校である。全校生徒数は 448 人、学級数 12 の中規模校である。

学校教育目標「心豊かな生徒、意欲的に学ぶ生徒、たくましく生きる生徒」のもと、全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。昨年度からの研究課題を「課題解決に向けた組織的な取組」と設定し、教員の授業力向上のため授業研究を中心に進めている。

われらの学校自慢

- 東中プライド
- ・気持ちのよい挨拶
- ・感動的な行事
- ・本気の授業

生徒が誇りをもって学校生活を送れるように生徒の実態をもとに、左のように東中プライドを掲げています。特に学校行事では、「体育祭」、「けやき祭」、「合唱祭」を三芳東中三大大行事として、伝統的に生徒が主体的に取り組み、自主・自律の精神を養っています。



2 分析支援プログラムから見る本校の特徴 正答率（県平均との差）

	国 語		数 学		英 語	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28
1 年	3.1	1.6	7	4.5		
2 年	-1.6	0.8	2.2	8.3	1.5	4.5
3 年	0.5	0.1	-0.1	4.2	-0.6	2.9

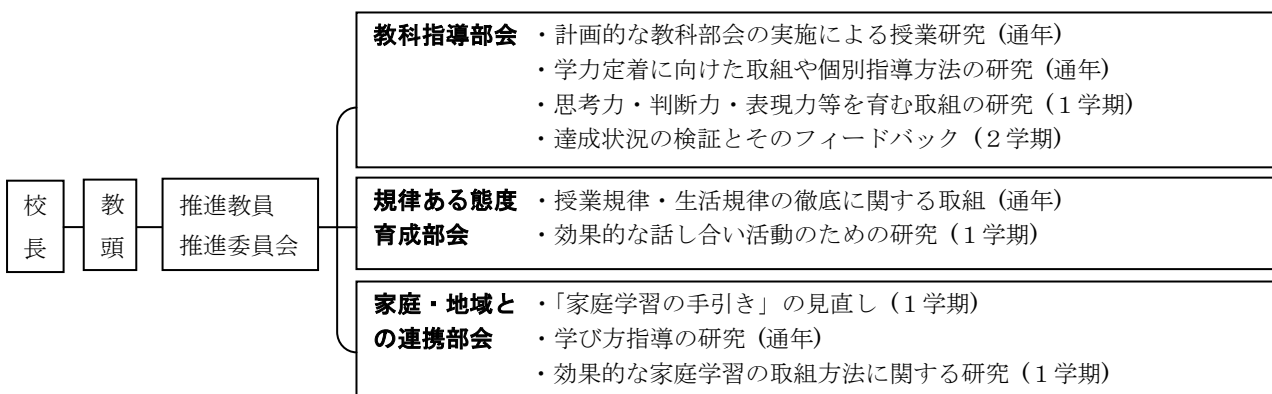
県学力・学習状況調査では、全ての学年・教科において、県の平均正答率を上回り、1 項目以外は、その差も大きく伸びている。一方、「書く・表現する」ことに苦手意識が見られ、さらなる言語活動の充実が課題である。今後は、現状の取組を維持しつつ、授業の充実、さらなる授業力の向上が重点課題となる。

3 伸びを引き出す効果的な取組

- (1) 教師の授業力を向上させるため、教科部会を充実させ、学力向上に向けた具体的な取組内容の共通理解を図るとともに、全教員による相互授業参観や研究授業を随時実施し、よい点や改善点について協議した。また、思考力・判断力・表現力等を育むため、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業実践を公開し、授業改善を図った。
- (2) 前時の振り返りや、確認テスト等により学習内容の定着度を確認し、定着するまで繰り返し指導し見届ける個別指導の実施や、定期テスト・全国学調・県学調等の結果を分析・活用し、課題を解決するための取組を組織的、計画的に実施した。
- (3) 適度な宿題を課し、その点検を行う取組や、「家庭学習の手引き」の活用・見直し、「学び方指導」の徹底等を学校全体で行い、学習習慣の確立を図った。

4 分析を踏まえた今後の取組

「教科指導の充実」、「規律ある態度の育成」、「家庭・地域との連携による家庭学習の充実」が総合的に高まることで、学力向上が推進されるであろうと考え、以下のような組織で取組を行う。





上里町立上里東小学校の取組

1 本校の概要

本校は新しくできた住宅地にある学校で、創立 41 年を迎えた。児童数は 680 名で、保護者の教育への関心も高く、教育活動に協力的な地域の人達が多い。上里町の子供たちを育てる合い言葉「あいさつ、返事、靴そろえ、集中した清掃」を徹底し、「かしこく、なかよく、たくましく」を学校教育目標として、教職員一丸となって、児童の健やかな成長のため、日々取り組んでいる。

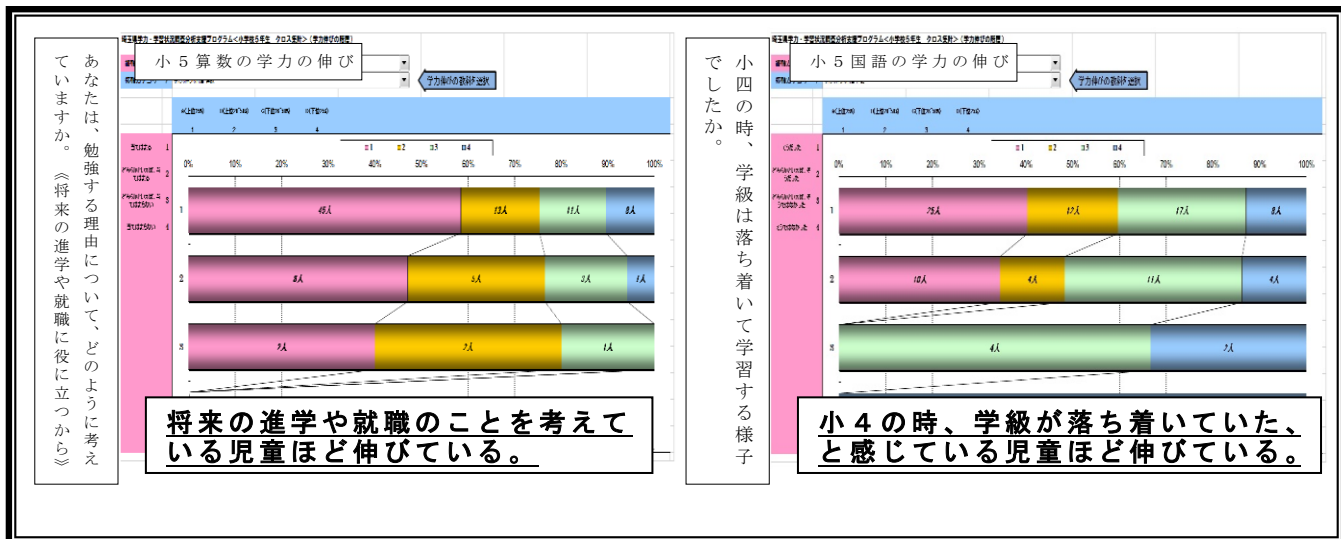
われらの学校自慢 縦割り班活動で仲間がいっぱい！

本校では、異学年のグループで集会活動を行っている。児童朝会や業間時の東っ子タイム、11月の「かえで祭り」では、3年生以上のクラスが総合的な学習の時間で学習したことをもとに展示やゲームを工夫し、異学年グループで活動している。当日は、学校応援団の方々もお招きし、感謝の会も開催している。



【かえで祭り】

2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



3 伸びを引き出す効果的な取組

- (1) 教師の言葉遣いや学習に役立つ掲示物等、落ち着いて学習に集中できる環境づくりを行った。
- (2) 1時間に机間指導を3巡することを心がけ、児童一人一人に応じた声かけやヒントカードを工夫した。
- (3) デジタル教科書や書画カメラ、タブレットPC等を活用して、視覚から児童の意欲を高める授業を行った。
- (4) 児童の実態に応じた個別の学習プリントを用意して、繰り返し取り組ませた。
- (5) 家庭での学習を奨励し、自主学習ノートに学習時間を記録させ、1冊仕上げるごとに賞状（校長賞）を渡した。



【書画カメラの活用場面】

4 分析を踏まえた今後の取組

- ・調査結果を活用し、児童の興味・関心を高める声かけや個別の支援を継続していく。
- ・算数の学習では、学校として統一した授業のスタイルが定着している。今後は国語の授業などでも校内授業研究会で研修したことを活かし、授業スタイルを定着していく。
- ・授業の中に友だちと考えを聞き合うことや探究することを取り入れ、児童相互に学び合う授業づくりを通して、児童の学力向上を図っていく。



皆野町立皆野中学校の取組

1 本校の概要

本校は、秩父盆地の北部に位置し、清い流れの荒川を眼下に望み、四季折々の美しさを見せる美の山を仰ぐ、自然環境に恵まれた学校である。今年、創立 54 年目を迎えた学級数 10(うち特別支援学級 1)、生徒数 260 名の中規模校である。

学校教育目標に、「学ぶ意欲をもち、心豊かに、未来をたくましく生きる生徒の育成」を掲げ、『チーム皆中』を合言葉に、全職員で取り組んでいる。本年度は研究課題を「将来への基礎的・汎用的能力を高める『学びの姿勢』づくり～キャリア教育を中心に据えた学力向上の研究～」と設定し、キャリア教育を中心に据えた取組を行っている。

われらの学校自慢

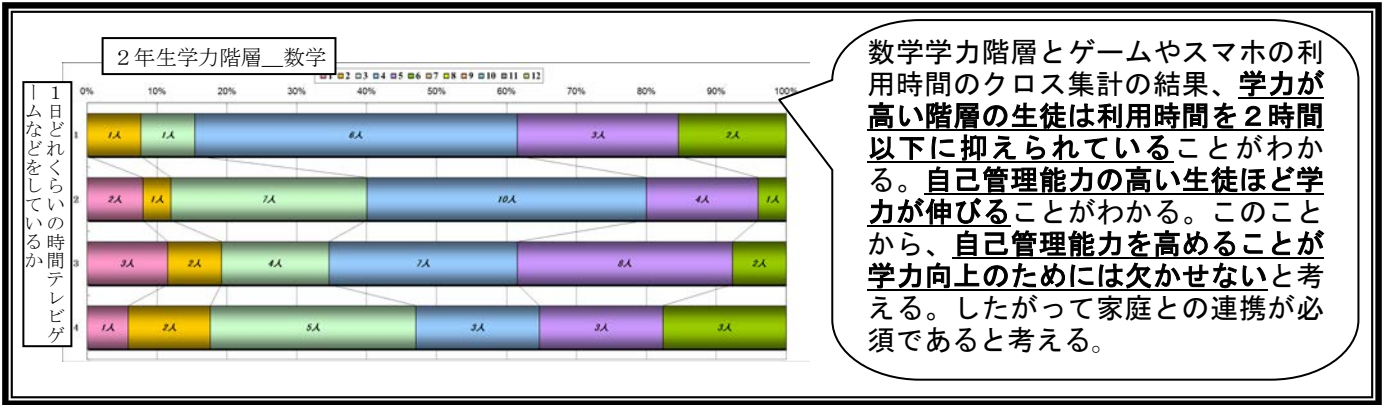
本校では、グローバル人材の育成に向けて、英語検定(英検)を活用しています。

皆野町教育委員会の積極的な支援を受けて、英検の受検者を増やしています。

さらに受検を希望する生徒には、「英検受かる会」と題した学習会を開き、英検合格率の向上を目指した取組を行っています。



2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



数学学力階層とゲームやスマホの利用時間のクロス集計の結果、**学力が高い階層の生徒は利用時間を2時間以下に抑えられている**ことがわかる。**自己管理能力の高い生徒ほど学力が伸びることが**わかる。このことから、**自己管理能力を高めることが学力向上のためには欠かせない**と考える。したがって家庭との連携が必須であると考えます。

3 伸びを引き出す効果的な取組

- (1) 授業規律・環境面の取組として、ユニバーサルデザインの視点に立った、黒板の周辺のレイアウトや、生徒の作品の掲示の工夫、授業道具の整理整頓などに取り組んだ。
- (2) 授業改善に取り組むために、「皆中スタンダード」という、授業づくりの基本的なスタイルをつくり、生徒にわかりやすい授業、魅力的な授業の構築に努めてきた。
- (3) キャリア教育の4つの基礎的・汎用的能力を本校では6つのスキルに分け、6 skills と銘打って、授業の初めに明示し、授業におけるキャリア教育に取り組んだ。
- (4) 地域・家庭連携では、「家庭学習の手引き」や「学力向上だより」を発行し、家庭や地域の協力を得られるようにした。
- (5) 皆野町教育委員会で作成した全町共通の「皆野っ子自主学习ノート」を活用し、家庭学習の充実を図った。これは生活ノートも兼ねており、担任の負担軽減にもつながっている。
- (6) 部活ごとに長期休業中に課題のチェック日を設定し、計画的に取り組ませる体制を整えた。
- (7) 支援が必要な生徒に対して、担任以外の教師が関わりを持ち、人間関係を大切にしながら、毎日プリントを渡して指導を行う「個別支援プログラム」を行った。

4 分析を踏まえた今後の取組

- 「皆中スタンダード」を踏まえた授業改善、6 skills を活かした授業改善
- 家庭との連携による家庭学習の充実とスマホ、ゲームなどの利用時間の制限
- 「個別支援プログラム」の効果的な指導方法の改善



行田市立中央小学校の取組

1 本校の概要

本校は埼玉県北部、東京都心から60km圏に位置し、行田市の中心部にある。本校教育の源流は、天保7年(1836)に桑名の藩校であった進修館を忍で再興し、藩士の子弟を学徒として教育にあたらせたことに始まり、その歴史は古い。地域住民の学校に対する関心が高く、本校は、地域のコミュニティーの場として期待され、学校への協力体制も確立してきている。また、緑豊かな環境に恵まれ、児童はのびのびとおおらかに育っている。本校のシンボルツリー、赤松を構える「歴史の森」を中心に、樹木オリエンテーリングやビオトープを活用した水中生物観察などの活動や体験を通して、身近な自然に親しみ、そのすばらしさや不思議さを感じ得る心を育てている。

われらの学校自慢

「歴史と緑のハーモニー」

校内には貴重な歴史的建造物が多く残されている。歴史の重みを感じながら、歴史と緑の調和を大切にしている。本年度は「全日本学校関係緑化コンクール」に県より小学校の部代表として推薦していただいた。

歴史の森



「礼儀・礼節を重んじ、師を敬う教育」

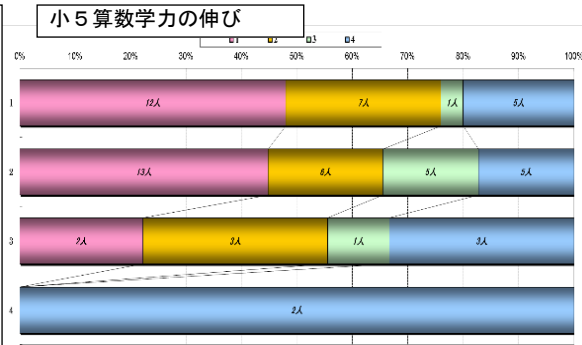
本校は、藩校「進修館」教学の精神を生かした教育を大切にしている。「すべての基本は授業から」を第一に掲げ、授業規律を大切にしながら文武両道を目指して日々取り組んでいる。現在、地域や風土の特色が何世代にもわたって育まれ、教育を重んじる中央小の形が形成されている。



礼3息

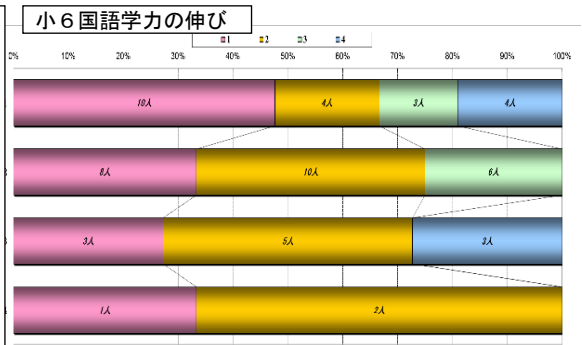
2 分析支援プログラムから見る本校の特徴

授業で課題を解決するとき、みんなでいろいろな考えを発表すること



課題解決の時、みんなで色々な考えを発表することに充実感を感じている子ほど伸びている。

自分の考えを理由を付けて発表したり、書いたりしていること



自分の考えに理由をつけて発表したり、書いたりしている子ほど伸びている。

3 伸びを引き出す効果的な取組

- (1) 授業規律の徹底のための「学びの名人」や、中央小3つのじまん「あいさつ・そうじ・言葉づかい」の確実な推進のための「さわやか名人」を作成し、全教職員で共通理解・共通行動をしている。
- (2) 「中央小算数の進め方」を「練習型」と「話し合い型」の2種類を作成し、単元に応じて全教職員の共通理解のもと、これらの授業の基本形で授業を進めている。
- (3) 「根拠を基に自分の言葉で伝え合う児童の育成」のために「～です。そのわけは、～だからです。」と結論、理由の順に発表させる。



根拠を基に説明

4 分析を踏まえた今後の取組

- (1) 学力テストの結果を受けて、研究推進部において結果の分析と方策を話し合い、学習指導部、学習環境部と連携した実践を、全教職員で徹底して行っていく。
- (2) 児童のゴールの姿を明確にし、算数では練習時間をしっかり確保し確実な習得を図る。
- (3) 毎週木曜の朝の時間をスキルタイムとして、テストにおいてつまずきが見られたところの対策プリントや基礎プリントに継続して繰り返し取り組んでいく。



羽生市立岩瀬小学校の取組

1 本校の概要

本校は、「岩瀬グローバルタウン構想」という再開発計画を進めている地域の学校で、今後の児童数増も見込まれることから注目を集めている学校である。

学校教育目標「よく考える子 助け合う子 たくましい子」のもと、教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。昨年度からの研究課題を「積極的にコミュニケーションを図る児童の育成～英会話科・外国語活動を通して～」と設定し、授業研究を中心に進めている。

われらの学校自慢

☆英語教育の推進☆

本校では、昨年度より文科省の教育課程特例校として、全学年で英語教育の研究を行っている。ALTが常駐し、授業以外にも、集会・給食・休み時間など子供たちとたくさんかわることで、コミュニケーション力の向上に努めている。



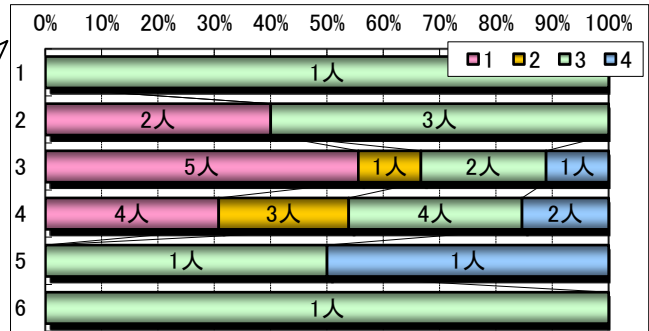
2 分析支援プログラムから見る本校の特徴

縦軸：家庭での学習時間

- 1. 3時間以上
- 2. 2時間以上 3時間未満
- 3. 1時間以上 2時間未満
- 4. 30分以上 1時間未満
- 5. 30分未満
- 6. 全くしない

横軸：学力の伸びの階層（算数）

- 1. 上位 25%
- 2. 上位 26~50%
- 3. 下位 26~50%
- 4. 下位 25%



家庭での学習時間の長い子の方が算数の伸びがよく見られる傾向がある。

3 伸びを引き出す効果的な取組

(1) 全学年でのドリルの統一及び学期末テストのイベント化

全学年で使用する漢字・計算ドリルを統一し、指導法についての研修を行った。また、学期末テストを自作し、全校イベントとして行っている。テスト範囲が明確になり、テスト勉強の習慣が身に付いた児童も多い。合格できなかった児童には、補習と再テストを行い、全員合格を目指している。

(2) 岩瀬小スタンダードの確立

①授業規律の確立、②「めあて」と「まとめ」の重視と可視化、③発問と板書の工夫など、授業力向上に向けて研修を行い、全教職員で共通理解を図り、これらを意識した授業実践を行っている。また、振り返りシートを活用し、定期的に授業の振り返りを行っている。

(3) 家庭との連携

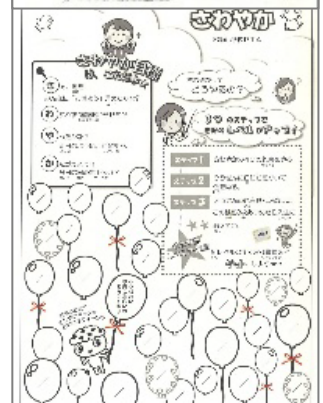
- ①「学力向上だより」の配布…学習方法や全国学調の問題・考察等を伝え、保護者に啓発している。
- ②家庭学習習慣の確立…PTA連携事業として家庭学習習慣付けシート「さわやか」を作成し活用している。

(4) 読解力を高める「ミニ読書感想文」

毎月全クラスで自分の読んだ本の感想を短くまとめている。代表は学年黒板に掲載される。

4 分析を踏まえた今後の取組

- ・学力の伸びが大きく見られた児童の要因を調べ、全体指導の改善へと結び付けていく。





八潮市立潮止中学校の取組

1 本校の概要

本校は八潮市の南部に位置し、本年度で開校 37 年目を迎える。全校生徒数 444 名、学級数 15 の中規模校である。つくばエクスプレス開通に伴い、八潮駅に近い立地から本校学区ではマンションの建設や宅地化が急速に進んでいる。

学校教育目標「自ら学び 考え 進んで実行」のもと、家庭や地域との連携を深めながら、小中一貫教育を推進してきた。潮止中ブロック 3 校では、年 3 回のジョイント教室やジョイント研修等を実施し、児童生徒、教職員の交流を計画的に行いながら、系統的・継続的な指導を推進し、小・中学校間の連結をより滑らかにしている。

われらの学校自慢

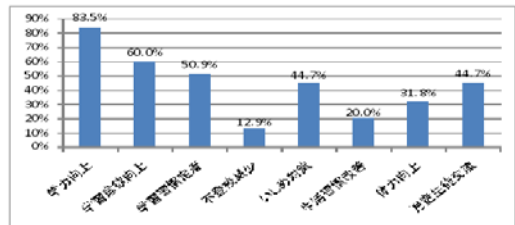
①ノーチャイムでの生活（生徒アンケートより）

- 一人一人が時間よりも前に動けるように心がけている。
- 生徒同士がお互いに時間を守るように声をかけることができ、仲の良い学校になるようにしたい。
- 生徒が時計を見て時間を守る習慣が身に付くようにしたい。



②潮止中ブロック小中一貫教育

- 児童生徒ジョイント教室、教員ジョイント研修
- 小中合同研修会
- 小中高合同保健委員会、小中合同あいさつ運動
- 小学校夏季学習会の中学生ボランティア



保護者アンケートから

「小中一貫教育に期待するものは何ですか？」→

2 分析支援プログラムから見る本校の特徴

考える

中3数学の学力の伸び

（中2数学）自分の考えを理由を付けて発表したり、書いたりできたこと

自分の考えや理由をつけて発表したり、書いたりできる生徒ほど数学の学力が伸びている。
（数学/中2→中3）

深める

中3数学の学力の伸び

（中2数学）グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなの考えを出し合って課題を解決すること

課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを共有している生徒ほど数学の学力が伸びている。
（数学/中2→中3）

3 伸びを引き出す効果的な取組

- 八潮全市で、「八潮スタンダード」（思考力・応用力を高める基本的な授業展開案）を踏まえた指導を推進している。本校でも、全教科で「つかむ・見通す、考える、深める、まとめる」という流れを意識し授業改善を進めている。
- 「3教科6つの取組」を各教科で継続的に実践している。
 - 数学科では、話合う時間・機会の確保、自分の考えや意見を発表する指導に力を入れている。
 - 国語科では、基礎学力向上のため、漢字学習や短い作文指導などの時間を確保している。
 - 英語科では、「将来の夢について」など、1文書く機会を毎時間工夫している。

4 分析を踏まえた今後の取組

- 無解答率に注目し、教科・出身小学校との関係性を見出しながら個別に手立てを講じていく。また、進路・キャリア教育と数学の学力との関係を分析し、学習指導に取り入れていく。
- 保護者に公開した調査結果に対する意見を集約し、学校としての課題を明確化する。さらに、「八潮スタンダード」の授業改善を踏まえ、各教科の弱点となっている領域（国語：話す聞く、数学：技能、英語：理解能力）の指導の在り方を見直し、学校として取り組んでいく。